



新春座談会の出席者。左から五十嵐丈さん（温海地域）、小林良市さん（櫛引地域）、井上夏さん（藤島地域）、皆川市長、佐藤祥子さん（鶴岡地域）、小野寺学さん（朝日地域）、勝木正人さん（羽黒地域）

新春座談会

もっと元気なまちにしたい －地域まちづくり未来事業の取り組み－

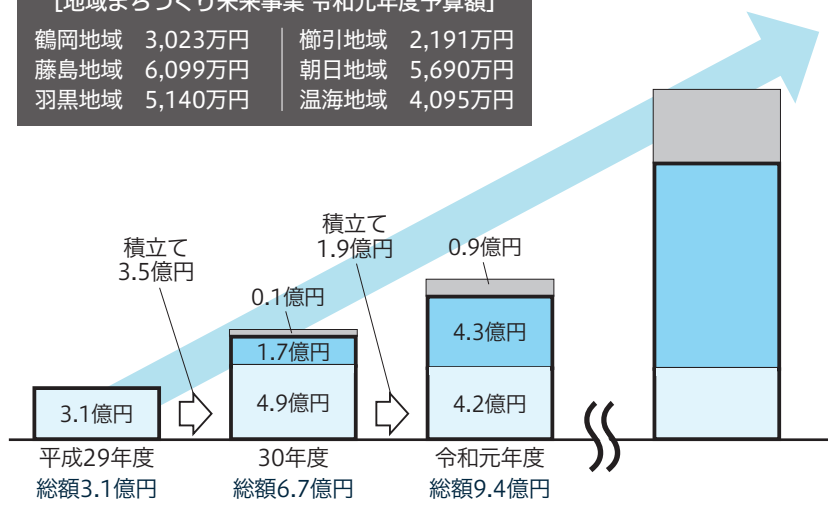
少子高齢化に伴う人口減少や担い手不足など課題が山積する中、それぞれの地域では個性を發揮しながら、地域の魅力の更なる向上を目指し活動しています。各地域で特色ある取り組みを行っている皆さんに、活動する中で感じた課題や今後の展望、地域に対する思いなどを語っていただきました。

地域まちづくり未来基金の造成イメージ

- 起債を充当した事業費の累計
 - 基金を充当した事業費の累計
 - 基金残高
- } 基金の積立額の累計(太枠)

〔地域まちづくり未来事業 令和元年度予算額〕

鶴岡地域	3,023万円	櫛引地域	2,191万円
藤島地域	6,099万円	朝日地域	5,690万円
羽黒地域	5,140万円	温海地域	4,095万円



地域まちづくり未来事業とは

平成17年の6市町村合併時に積み立てたまちづくり基金を原資に「地域まちづくり未来基金」を創設し、それを主な財源として各地域の魅力あるまちづくりに活用する事業で、平成30年に取り組みを開始。

事業は、地域まちづくり未来事業計画等に基づいて行われる。この計画は、地域住民の幅広い意見やアイデアを反映させ、さらに各地域振興懇談会や鶴岡まちづくり塾、地域まちづくり未来事業検討会議など様々な場面で意見を伺い策定して、毎年見直しを行うこととしている。

一同 明けましておめでとうございま
す。

市長 今日、「地域まちづくり未来
事業」がテーマということで、各地域
で頑張っている皆さんと話し合いをして
いきたいと思っています。

私は東京で働いていましたが、鶴岡
のために働きたいという思いがあり戻
ってきました。私の家は代々農業を営
んでおり、私自身農林水産省で働いて
いたということもあり、各地域の特色
ある農林漁業は大切だと思っています。
美しい自然とそこにある産業、それ
を基盤に、旧市町村それぞれのすばら
しい所を伸ばして鶴岡市全域の発展を
図りたいと思っています。

市長就任後、合併したときに積立て
をした3・1億円を活用し、各地域の
特色ある取り組みを支援するための財
源として「地域まちづくり未来基金」
を創設しました。継続して事業に取り
組むことができるように、毎年使わず
に残った予算の一部を基金に積み立て
ていくことにしています。各地域限ら
れた財源ではありませんが、地域の皆さ
んで必要なことを話し合っ、地域の
ために生かしていただきたいと考えて
います。

東北一広い鶴岡市の各地域の方向性
について、私が細かいことまで決めて
やっていたことは物理的に不可能
です。地域のことをよく分かっている
地域の方々自身が主体的に考えて取り

組むことが大切です。今日は市の支援
の在り方や進め方も含めてご意見を
聞かせください。

それぞれの取り組み

司会 皆さんからは、策定した地域ま
ちづくり未来事業計画に基づいてそれ
ぞれ取り組んでいただいています。始
めに、皆さんの活動内容について教え
てください。

井上 まず、地域まちづくり未来事業
ができてありがたいなと思っています。
農家にお嫁に來たので農業にも関わっ
ていますが、私が地域のまちづくりと
して取り組んでいるのは、新しくでき
た藤島歴史公園「Hisu花」の活用
です。市民20人くらいが実行委員にな
りワークショップを立ち上げ、どのよ
うにしたら公園を皆さんから使つも
らえるかなどを話し合っています。今
年度からリーダーを務めさせてもらっ
ています。

昨年度からイルミネーションの事業
を行っており、皆さんの意見も聞き入
れながら、リーダーとして自分なりの
考えを持って事業を進めさせてもらっ
ています。

勝木 私の住む羽黒地域の手向地区は
少子高齢化の影響を大きく受けていま
す。現在、地区の人口は約1,300
人ですが、このまま何もしなければ
2045年には300人を切ると予測

地域まちづくり未来事業計画における各地域の柱

■鶴岡地域

- ①未来を見据えた住民主体のまちづくりの推進
 - ②地域の明日を担う人材の確保・育成
- 鶴岡地域では、広域コミュニティ組織が、目指す地域の姿の実現に向け取り組むプロジェクトを策定し、その中に位置付けた事業を提案し実施。今年度は三瀬地区、第二学区、加茂地区、小堅地区が取り組む。

■藤島地域

- ①豊かな田園文化の継承と水田農業革命の実現
- ②歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進
- ③くらしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の再構築

■羽黒地域

- ①人を惹きつけ魅力あふれる観光の推進
- ②地域の特色を生かし価値を高める農業の推進

■櫛引地域

- ①果樹産地の特色を生かしたフルーツの里づくり

- ②農業自然体験に着目した都市農村交流の推進
- ③地域を越えて連携する広域観光圏の形成
- ④黒川能など貴重な歴史文化の継承と活用推進
- ⑤コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進

■朝日地域

- ①中山間地における定住環境の支援
- ②森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興
- ③自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興

■温海地域

- ①あつみ温泉の魅力の向上と賑わいの創出
- ②日治道延伸を生かした鼠ヶ関周辺地域の活性化
- ③自然・歴史・文化を生かした交流人口、関係人口の拡大
- ④農林水産資源のブランド化
- ⑤次代を見据えた自治会機能とコミュニティ機能の強化
- ⑥海・山・自然豊かに暮らし続けられる環境整備

されています。ですから、観光に関係する生業なりわいを作つて、門前町手向に人を呼び込むということに力を入れてきました。しかし、まだ思うような結果は得られていません。

また、今特に力を入れて取り組んでいるのは、このまちをどうするかという未来像を描く「門前町地域活力創出ビジョン」の策定で、今年度完成します。

3つ目は、宿坊街の町並みの保全・整備です。今年度は40戸に提灯ちようちんを設置しました。神社から木材をもらい、村の大人さんに台を作ってもらつてそこに提灯を掲げました。市長さんからも通りを歩いていただきました。来年度もやりますので、またお越しいただきたいと思っています。

小林 江戸時代、熊本城主・加藤清正の息子、忠廣は酒井家お預けとなり、その後の生涯を丸岡で過ごしました。そういった歴史を顕彰することを第一の目的として、大正2年に荘内加藤清正公忠廣公遺蹟顕彰会が発足しました。ただ知識としての歴史を伝えるだけではなく、祭りや丸岡桐箱踊りという伝統芸能、鯉もちという伝統料理と組み合わせる活動し、伝承や地域づくりにつなげていきます。

また、櫛引地域で計画している事業は、観光と関わりのあることばかりなので、櫛引観光協会全体で取り組んでいます。地域の関係団体が連携して、一つの場所だけで終わらないように、

その事業を生かして、地域全体の観光振興に波及していければいいなと考えています。

小野寺 月山あさひ振興公社は、道の駅「月山」月山あさひ博物館や湯殿山スキー場の管理運営を行つていて、各種イベントの開催などにも取り組んでいます。

あさひむら観光協会では、近年、路線バス廃止による登山客の減少がみられたため、対策として今年度夏季観光バス事業を実施し、朝日地域住民の足としても利用されました。また、月山あさひ博物館の文化創造館に事務所を併設し、食と六十里越街道トレッキング連携事業などに取り組むほか、庄内の玄関口として観光案内や情報発信を行つています。

五十嵐 私はNPO法人自然体験あつみコーディネートと羽越のデザイン企業組合という2つの会社で働いています。どちらも目的は一緒で、先人が引き継いできた地域の自然や文化、社会を次の世代に引き継いでいくことです。

その方法として、自然体験あつみコーディネートでは、温海ならではのモノ・コトを体験プログラム化して、温海地域を訪れたお客様に提供しています。羽越のデザイン企業組合としては主に、しな織の原料となるしなの木の花を原料としたコスメの販売をしています。地域の魅力を次の世代につないでいくためには、知ってもらうことと、



小林 良市さん

櫛引観光協会会長、荘内加藤清正公忠廣公遺蹟顕彰会会長など。櫛引地域振興懇談会委員として、当事業全般や地域の振興策に様々な観点から提言。櫛引地域のほとんどの事業に関わる。



勝木 正人さん

手向地区自治振興会会長、出羽三山魅力発信協議会会長など。平成26年9月に手向地区自治振興会を立ち上げ会長となる。手向まちなみ委員会では、住民の代表として、手向らしい門前町の景観づくりという観点から発言。



井上 夏さん

Hisu花ワークショップリーダー、井上農場経理・ポン菓子製造部長など。持ち前の明るさと行動力で幅広いネットワークを持ち、全国に米や農産加工品を販売する井上農場を支えている。酒田市出身。



佐藤 祥子さん

加茂地区自治振興会事務局局長。加茂ビジョンの実施に際し、自然・産業・環境・教育・歴史の各チームをサポート。昨年は、歴史チームが取り組んできた日本遺産「北前船寄港地」の認定にも尽力。市内大山出身。

地域経済が循環していく仕組みを作る
ことが必要だと考えています。

佐藤 今年度、これからのまちづくり
の方針となる加茂ビジョンを完成させ
ました。これに加茂でやりたいことの
全てが盛り込まれています。以前はコ
ミュニティセンターの職員が先頭にな
って地域のことを考え、地域の方の思
いはあまり反映されていなかったとい
う状況でした。それが、ビジョン策定に取
り組んだことをきっかけに、地域の
方々が「自分たちはこういう地域に住
みたいんだ」という提案をするようにな
り、私たちコミュニティセンターの
職員がそれをフォローするということ、こ
れまでとは正反対の関係になったん
です。そしてこの一冊ができました。

それから、加茂に何百年も伝わる泊
町大黒舞の継承にも力を入れています。
この大黒舞は、大黒様と恵比寿様が2
人で舞う珍しいもので、失われてしま
うことは地域としても大きな痛手にな
るんじゃないかと考え、若者に声を掛
け後継者の育成をスタートさせました。
市長 この地域まちづくり未来事業と
いう制度には、まだまだ進化、改良の
余地があると思っています。皆さんか
らいくつか出たキーワードで言うとな
る「観光」がその一つです。できれば子
供の数が減らずに、人口が増えていく
ことが理想的ですが、すぐにそれを実
現することは容易ではありません。で
きることから取り組むことが重要です。

まずは来て、体験して、食べて、泊ま
ってもらうなど観光・交流人口を増や
していく。それは比較的取り組みやす
いところだと思いますし、各地域に素
材はたくさんあるわけです。大事なの
はどうやってそこにつながる仕組みを
作っていくのか。

それぞれの地域で、課題を明確にし
方向性を定めたビジョンを作るなど、
熱意を持ってまちづくりに取り組んで
いただいています。これはすごいこと
だと思います。行政主導で働き掛け
たとしてもこうはなりません。やはり自
分の住んでいる地域が好きだから何と
かしたいという思いが根底にあるのだ
と思います。改めて各地域で個性的な
活動が展開されていると感じました。

順調に進まないこともある

司会 取り組んでいる中での様々な悩
みや苦労したこと、また、今後の課題
などありましたら聞かせてください。

井上 Hisu花のワークショップに
は70代から私よりちよつと若い子たち
まで幅広い年代が参加しています。実
行委員は20人いますが、実際に動ける
のは半分くらいで、しかも若い人が少
ないんですね。私は経理が仕事で農作
業の現場には行かないからできてい
るというのがあると思っていますが、皆
さん仕事で忙しく、限られた時間で会
議などをするので、参加できる人が少



皆川 治

鶴岡市長。旧鶴岡市と旧
町村が共に発展するまち
の実現のため、「地域ま
ちづくり未来基金」を創
設。

【司会】
鶴岡市企画部長
阿部 真一



五十嵐 丈さん

羽越のデザイン企業組合
副理事長、自然体験温海
コーディネット・観光
コーディネーター。大学
生時代に福栄地区の地域
活性化推進員として学業
と地域づくりを両立。地
元をこよなく愛し、大学
卒業後地元就職。



小野寺 学さん

(株)月山あさひ振興公社支
配人、あさひむら観光協
会事務局長など。道の駅
「月山」月山あさひ博物
村の魅力向上のため、施
設改修を行い、自らの発
案でボルダリング設備を
整備。昨年からの道の駅
長も務める。



藤島

今年度の「Hisu花deないと」では音楽フェスも開催し大盛況



羽黒

手向地区固有の歴史的景観を生かそうと黒板塀を塗り替え



櫛引

黒川能の保存伝承の一環で体験用楽器を購入し展示

ないんです。イルミネーションの点灯式イベントでも、やはり若い人たちの力が必要だと感じました。

勝木 羽黒山はここ2年すぐたくさんの人が来ていますが、門前町の方にはあまり来ていません。五重塔を見て山頂を見て終わり。それを何とか門前町の方に向かせたいと考えています。買い物ができるお店などを作らなければいけないと思ってるんですが、特に商売事になるとなかなかうまくいきません。

ですが、地域の人たちが人口減少をどうにかしようという機運が出てきている面もあります。それはホテル祭り。7月の初めに大人から子供までみんなで螢を見に行くんです。今まで3回や

って螢が見られたのは今年の1回だけですが、最近螢を見たことがないからみんなうれしくなるんですね。見ることもできなかつたときでも、その後は必ず直会なほらいをして盛り上がります。子供たちにそういった経験をさせることが、地域に対する愛着につながるのではないかなと思っています。

小林 活動で苦労していることは、検討を進めていくと確実にぶつかると、将来の人口減少、担い手不足という点です。何とか事業を拡大基調に持つていきたいと思うのですが、それを将来誰がやるのかとなるとそこでストップしてしまふのです。現状のままでは、産業経済活動の縮小や伝統文化、芸術活動の衰退が懸念されます。

全国津々浦々同じことに困っていると思いますので、鶴岡市がうまい仕組み・仕掛けを作ることができれば、全国のまちづくりの手本になるのではないかなと思います。

小野寺 観光バス事業は、泡滝線と七ツ滝線の2路線で実施しました。泡滝線は登山者や地域住民、七ツ滝線は観光客の利用が多く、2か月間だけでしたが実施できたことは大きかったですね。秋には七ツ滝の紅葉がとてきれいに見られますので、観光客の利用も考えて今後は期間の延長ができれば良いと思っています。

そして、食と六十里越街道トレッキング連携事業は、今年度で3年目となりますが、初めて旅行代理店での商品

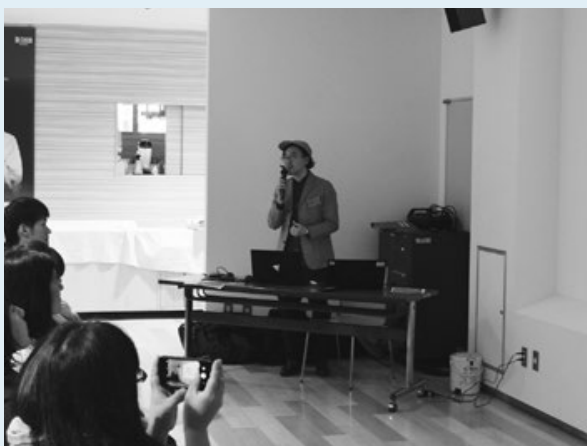
化が実現しました。しかし、参加者の募集から催行までの難しさを実感した1年でした。六十里越街道を歩くことができるのは5月中旬〜11月上旬とシーズンが限られています。短期間で企画準備から催行を実現させることができれば、商品の魅力をよりたくさんの人に伝えられると思っています。

五十嵐 自然体験温海コーディネートは、始めに目的をお話ししたとおり、ただ体験を提供するだけではありません。次の世代につないでいくためにも、体験のインストラクターを地元の方にも協力をいただき、ボランティアではなく、きちんと報酬を支払う形をとっています。先ほど担い手不足の話がありました。気が持ただけで継続させて



朝日

夏季限定で実施した観光バスは多くの登山客等が利用



温海

「関川しなの木と花・郷フォーラム」で講演する五十嵐さん



鶴岡

泊町大黒舞保存会の新会員になった若者に対し舞いの動作を講習

いくのは非常に難しいです。小さくても仕事として受けられるようになれば、若い世代も協力でき、持続可能な方法で地域活動を続けていくことができると考えています。しかし、現状としては支払えている額は微々たるものです。活動の輪を大きくしていくことが今後の課題ですね。

また、若者に地元が好きだという気持ちはあっても、帰って来られないのは仕事がないことが大きい理由なんだと思うんですね。今は動画配信サービス等の娯楽関係は、どこにいても恩恵を受けられるようになってきているので、生活コストが少ない地方のメリットは高まってきています。地域経済にもお金が循環してくる仕組みを作る

ことで仕事ができれば、少なくとも私達の世代は帰って来るのではないかと考えています。

佐藤 ビジョンを策定して今後実際どう活用していくか、それをどう目に見えるような結果につなげるかが一番の問題かなと思っています。加茂の場合、水族館があつて、観光客が何十万人も来るんですが、地区には商工会も観光協会もありますが、その2つの役目は私たちがコミュニケーションセンターの職員2〜3人でやっています。正直なところ大変ではあるんですが、加茂地区はほかにも海・山・歴史など資源にとても恵まれているので、この材料をどううまく活用して地域に人を呼び込むかが今一番の課題ですね。

加茂地区の住民だけで解決できれば一番いいんですけど、それだけで解決できるようなことではないとも思っています。変なプライドを捨てて、加茂を好きと思つている住民以外の人の「加茂のために何かやつてみたい」という気持ちを快く受け入れ、一緒に何かできたらいいなという考えに変わってきています。住民では気付かないこともあると思いますしね。

市長 地域に人材がいらない、外からも人が来ないという悩みや、商品を開発しても果たして売れるだろうか、ビジネスとして成り立つのかとなると踏み出せない。また、地域を何とかしたいというふるさと愛を持つていてもふだん別の仕事を抱えていると、地域活動

に行くのが難しいということは、共通する課題としてあると思います。

公共性・公益性はあるけれども、なかなか成り立たないということに行政が関わる意味があります。今日の皆さんの話を市役所自身もつと真剣に受け止める必要があります。地域に出てそういう実態を知る努力が必要ですね。地域まちづくり未来事業とともに、地域の悩み事に応えていくアドバイザー職員という仕組みも作りました。職員もそれなりの知識や経験がないと応援することができないので、経験豊富な人と若い人を組み合わせるの派遣も一つのパターンとして考えています。

地域の皆さんが悩んでいることに寄り添い、一緒になつてその課題解決を



図っていくことができれば、一気にとはいかないまでも、悩みが少しずつ解消されていくのではないかと考えています。専門的な知識を持つ職員がたくさんいますし、地域とともに取り組むことで職員自身の成長にもつながります。

もつと魅力あるまちに

司会 課題を踏まえて、皆さんの活動がさらに前向きに進むためにはどうしたら良いと思いますか。

井上 私自身イルミネーションが地域に関わる初めての活動です。2年目ですが評判がとても良く、今後もずっと続けていきたいと思っています。実は資金が全くないうところからのスタートなので、どうやって協賛金を集めるかが課題でした。ところが、協賛を募ったらあつという間に広告の枠が埋まるくらい集まり、「もつと出したい」「もう粹ないの？」などと言われるほどでした。地域の人の、この地域のために協力したいという思いを感じる事ができました。

来年度はさらにみんなが喜ぶようなイベントにしたいと考えています。今回は2か月半の点灯ですが、県外からも見に来ていただいたり、インスタグラムなどのSNSに投稿してくれたりする方もいるので、冬といえば藤島のイルミネーションと言われるくらい盛

り上げていきたいと思っています。

勝木 市長が先ほど市役所職員から地域のことをもつと知ってほしいと言っていました。地域活動センターに1年間職員を出向させるのが一番手っ取り早いと思います。そうすることで地域のことを知ることができ、それに関わるセンターの職員の仕事量の多さなども分かると思うんですね。

市長 フルタイムでの出向となると難しい点があると思いますが、しっかりと交流し、情報共有するということは十分に考えられることです。職員が自分も地域の一員なんだという気持ちでともに活動している地域は元気な所が多いと感じています。

小林 私は櫛引地域に住んでいますが、ほかの地域について興味はあっても、詳しい活動内容についての情報はあまり入ってきません。今日の座談会のようにほかの地域で何をやっているかを知れば、競争をしたり、連携をしたり、また励まし合ったりということができて、市全体が活性化すると思いますので、こういう機会をこれからも作ってほしいと思います。

また、鶴岡には例えば、食文化創造都市や3つの日本遺産、サイエンスパークなど、それぞれの核ごとに歯車が非常によく回転し始めています。全国からも注目され、鶴岡は評価されていますが、それぞれの歯車がさらに連結して大きなうねりにすることが必要だ





と思います。それは市の中心部だけではなく、それぞれの伝統産業、伝統芸能など様々な魅力を持った周辺の地域も全部巻き込んだうねりになるような仕組み・仕掛けを作ってほしいです。

小野寺 私も朝日地域内だけではなく、柳引地域などと連携を密にしていこうとで様々な相乗効果が生まれると考えています。

実際に庄内管内の道の駅でイベントを同時開催していて、効果的な情報発信をすることで集客にもつながっています。周辺地域とコミュニケーションが取れたらもっと踏み込んだ取り組みができると思います。

五十嵐 活性化は重要ですが、それよりもゴールを定めることが重要だと思います。現時点よりもっと住みやすい環境へ移行する段階で活性化エネルギーが必要となるのですが、必死に活動する中で、いつの間にか活性化そのものが目的になっていることもありま。闇雲に活性化させようとするのではなく、在りたい形を明確にして、必要な仕組みを作り、ゴールを目指すことが重要だと思っています。

佐藤 五十嵐さんの言葉は本当にその通りだなと思います。加茂ビジョンもゴールを定めています。検討委員の人たちも常に「ゴール」と言っています。ワークシヨップでもゴールに向かって順調に進んだときは「またすぐ集まろう、話をしよう」となるくらい

エネルギーが高まって、私が置いてきぼりにされることもあるくらいです。ただチームによつては方向が定まらず止まってしまうこともあります。ですから自分は、満遍なく誰にでもフォローできるような立場でいたいと思っています。

地域の個性をさらに磨き上げる

司会 皆さんから様々なお話を聞かせていただきました。最後に市長から今日の座談会の感想をお願いします。

市長 今日は大人だけでお話をさせていただいたわけですが、魅力的なまちの実現に向けた活動が、子供たちに伝わっていくことがすごく大事なことでと思います。

それぞれの地域に個性、多様性がある中で、皆さんが様々な方法でその磨き上げに取り組んでいて、これだから参加してみたい、買ってみたい、泊まってみたいなど、新しい需要を作り出すような意欲的な活動が行われていると感じました。

6つの地域が合わさった鶴岡の良さは世界最先端のものとして必ず評価されると思います。本当に誇るべきまちだと思います。皆さんには最先端を行っているという意識で今後活動を展開していただきたいなと思います。

一同 ありがとうございます。